



Home Island Project (HIP) について

Home Island Project (HIP) は、四国を愛する 20 ~ 30 代の社会人・学生で構成されている任意団体です。
東京にいながらも、ふるさと四国のために貢献したいという想いから経済産業省、四国各四県、多くの地元企業の後援・協賛を得て、2008 年 1 月に活動を開始し、NHK、朝日新聞、J-WAVE、L25、日経 WOMAN など多くのメディアに取り上げられて頂きました。

今までの活動

- 2008 年 3 月 8 日 **ビジネスフォーラム ~ 世界につながる四国の企業 ~**
世界に挑戦する四国企業のトップを招いたビジネスフォーラム
- 2008 年 6 月 14 日 **四国大夏祭り ~ 東京の中心で、四国を叫ぶ ~**
阿波踊り・よさこい・さぬきうどん等、四国の楽しいもの・美味しいものを全て集めたイベントを開催
- 2008 年 8-11 月 **『農』と言える四国**
四国の若手農家と東京の食の専門家・バイヤーとのコラボで・マーケティング戦略立案・新商品開発・販路開拓
第一部・ワークショップ、第二部・アグリツーリズム、第三部・産直市 & 交流会 の三部構成。
- 2008 年 2 月 **四国ツアーバスデザインコンペ「キャンパスは、バス」**
- 2008 年 3 月 1 日 **「YouTurn ~ みんなの知らない、みんなが知りたい。いまどき四国の U ターン ~**
経産省の U ターン支援事業を、若者の視点でのアプローチで企画

これからの活動

- 農業 **「農」と言える四国 ~ Tokyo Recipe Collection 2009 ~ (4/19 イベント)**
- アート **2010 年瀬戸内国際芸術祭をはじめとする四国アート / 建築を PR するツアーやイベントの企画**
4/28(火) 19:30 ~ 四国アート祭り @ 汐留アーキテクトカフェ
- スポーツ **2010 年 8 月 瀬戸内国際体育祭 (島々を舞台としたアドベンチャーレース開催)**
- 伝統文化 **四国へんろ道を世界遺産にする。「山手線一周おへんろイベント」企画中**
- 音楽フェス **四国出身アーティストのミュージックフェスティバル「459.69」企画中**

Home Island Project U-Turn Forum 2009



みんなの知らない、みんなが知りたい。
いまどき四国の U ターン。

主催：経済産業省四国経済産業局、四国生産性本部

後援：徳島県、香川県、愛媛県、高知県

第二部協賛：株式会社リクルートエージェント

企画運営：Home Island Project

お問い合わせ：shikoku@hipj.net | <http://www.hipj.net/>



みんなの知らない、みんなが知りたい。
いまどき四国の U ターン。



3/1(Sun)
東京大学駒場食堂

Uターンアンケート

いまだき四国のUターン、103人に聞いてみました。

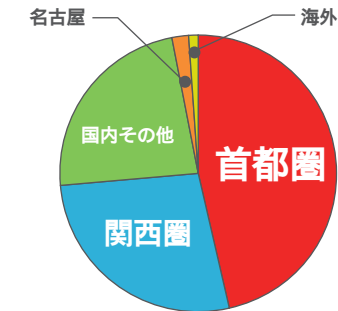
Uターンのことは実際にUターンした人たちに聞くのが一番。ということで、Home Island Projectでは、四国へUターンし、現在も四国に住んでいる人たちに独自にアンケートを実施しようと考えた。2008年10月に発表された国立社会保障・人口問題研究所の人口移動調査では、出生地に生活拠点を戻した人の割合を示す「Uターン率」は、06年7月時点で男女ともに3割を越え、現行の調査方式となった91年以降で最高となったそうだ。同研究所は「団塊リタイア層が増加したため、さらにその傾向が続く可能性が高い」と分析している。しかし年代を詳しく見てみると、なんと30～35歳の世代が5%もの上昇率を見せ、団塊リタイア層に続いてのボリュームゾーンとなっている。今回のフォーラムのターゲットである、彼ら若い働き盛りの層は、どのような理由で四国へUターンするのだろうか？

ということでHome Island Projectでは20代～30代を中心にターゲットを絞り、アンケートを実施。そこから現状の四国のUターン事情がおぼろげながら見えてきた。

今回アンケートに御回答いただいた方の属性：103名

- 性別 男性：69名、女性：34名
- 県別 徳島：24名、香川：34名、高知：16名、愛媛：26名、その他3名
- 年代別 21歳～25歳：10名、26歳～30歳：42名、31歳～35歳：38名、36歳～41歳：13名
- 業種 公務員：15名、建設/土木/住宅：12名、IT/情報通信、製造業：各9名、印刷/広告/出版/メディア、医療/健康/福祉：各6名、金融/保険、教員/講師：各5名、商社/卸、フードサービス：各4名、農林水産業、学生：各3名、不動産、アパレル/化粧品、派遣/紹介/業務請負、電気・ガス・熱供給、ビル管理/警備、デパート/小売店、ホテル/レジャー、移動販売/宅配：各1名、その他：14名

Q1：どこからUターンしましたか？

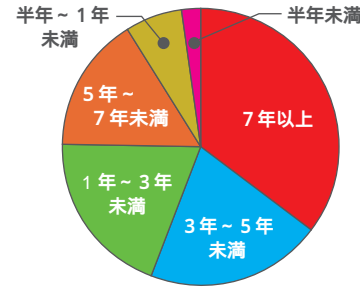


首都圏（東京・神奈川・埼玉）からのUターンは半数近くをしめ、県別の内訳も徳島14名、香川14名、高知8名、愛媛12名と大きな片寄りは見られない。大学は地方大学で就職は首都圏などの例もあり、就職という点では首都圏の魅力はやはり相当強いのだろう。

関西圏の県別の内訳は、徳島7名、香川11名、高知3名、愛媛7名。徳島県は関西圏の影響が強いので、片寄るかと思っただけ意外に平均的な数字がでてきた。その他は、岡山県、広島県、島根県、福岡県、大分県、茨城県、栃木県、静岡県、北海道など。関東以北は北海道のみ。東北など関東以北の県や中部、北陸とは関係性が薄いことがわかる。

首都圏：48名 関西圏：28名 国内その他：24名 名古屋：2名 海外：1名

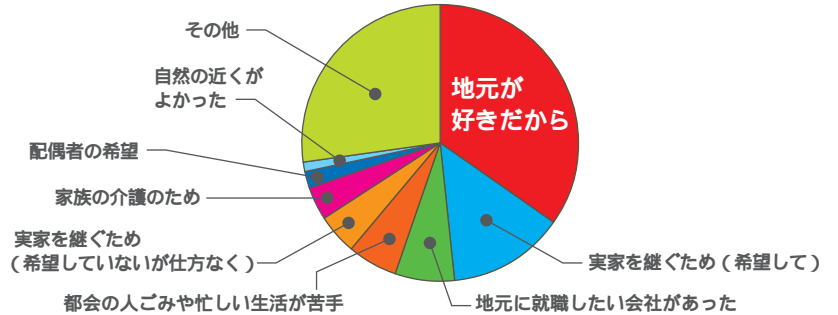
Q2：Uターンしてから何年目ですか？



Uターンしてから7年以上の回答者が3分の1を占め、全体に占める20代前半で帰郷を決めた人数も56人と過半数以上となっている。大学を出身県以外で過ごし、卒業後そのまま地元で就職したり、間を置かず帰郷するケースが多いのではないかと推測される。新卒が一番就職しやすいという日本企業の採用傾向も後押しし、いつか地元に戻ろうと考える人にとって決断しやすいタイミングになっているのだろう。ところが、1年未満のUターン者数は非常に少なく僅か9名。これは現在の不況の影響で、地方での就職口が減少し、採用需要が多い首都圏・関西圏でまず就職を決める場合が多いのではないだろうか。実は調べてみると四国にも世界を相手に活躍する優秀な企業が多い。地方では働き口が少ないのではと思いきまず、まずはよく調べることで、新たな道が見つかるかもしれない。

7年以上：36名 3年～5年未満：20名 1年～3年未満：21名 5年～7年未満：16名
半年～1年未満：7名 半年未満：2名

Q3：Uターンした理由

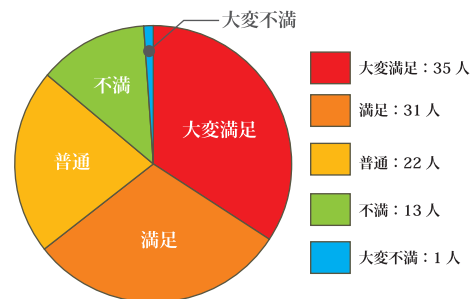


地元が好きだからという理由が第一位となっており、生まれ育った四国への想いが見受けられる嬉しい結果になった。しかしながら、国立社会保障・人口問題研究所の人口移動調査によると、全国的にみてUターンの理由は、職業上の理由、結婚によるものが上位となり、特に20代～30代においては顕著である。その中には「東京に就職先がなかった」や「経済的に一人ですべてやっていくには厳しかったので」などの帰郷を希望していなかったけど仕方なく、という人も多く含まれる。もちろん、「地元が好きだから」とか「地元を活性化させたいから」というポジティブな理由でUターン就職をする人も少なくはない。仕方なく帰郷した人たちも、やっぱり四国がいいなあ、と思えるよう、Uターンという言葉に感じがちなネガティブイメージを払拭できる環境を四国に作っていくことが大事なのだと感じた。

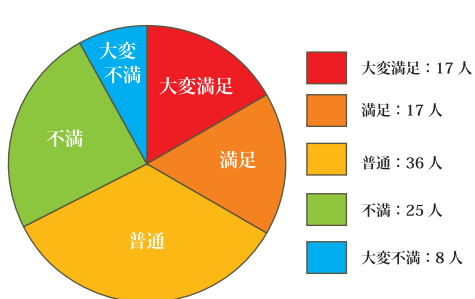
地元が好きだから：36人 実家を継ぐため(希望して)：14人 地元で就職したい会社があった：7人
都会の人ごみや忙しい生活が苦手：6名 実家を継ぐため(希望していないが仕方なく)：5人 家族の介護のため：4名
配偶者の希望：2名 自然の近くがよかった：1名 その他：28名

Q4：Uターンして満足していますか？

【仕事内容について】

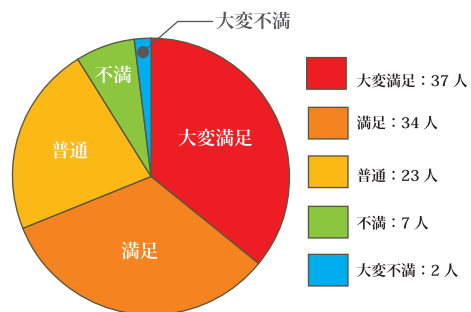


【収入について】



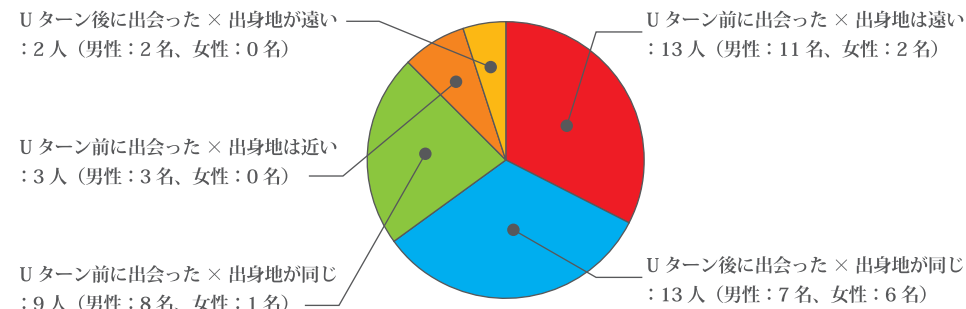
約3分の2の回答者がUターン後の仕事内容について満足しており、不満を感じている回答者は15%以下と非常に少なかった。一方、ある程度満足する仕事がない限りは、Uターンしないため、このような結果が得られているという見方もできる。しかし、収入については、満足の割合が全体の3分の1に下がったうえに、不満の割合も全体の3分の1と上昇を見せる。地方が東京に比べて全般的に物価が下がるとはいえ、東京などで慣れてきた収入と比べるとやはり不満が出てきてしまうのだと想像される。しかし、内閣府発表・国民生活に関する世論調査（2007年7月）によると、所得収入に対する満足度55%を超えており、それと比較すると四国での満足度は比較的高く、仕事のやりがいと収入に関して比較的バランスのとれている環境なのでは、と推測される。

【プライベートライフについて】

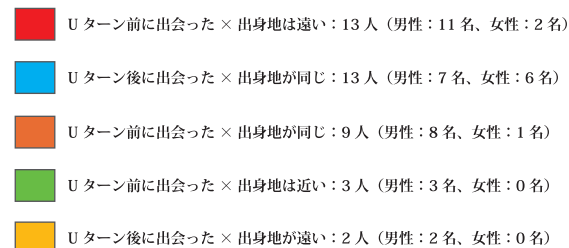


Uターン後のプライベートライフに関しては、全体の約4分の3が満足という高評価になっている。不満が占める割合も10分の1と、回答者のほとんどがUターン後のプライベートライフに満足していることが伺える。その他、結婚を機会に地元に戻った人たちからは、四国は子育てをするには最適の土地、との意見もあり、育った土地の環境に対する高い信頼を感じられる。

Q5：配偶者と出会った状況は？（配偶者がいらっしゃる方のみ）



例えば東京で出身地以外の人と結婚した場合、その配偶者を伴って地元へUターンすることが障壁になる場合は多くある。特に女性の場合、Uターンまでに会って、女性の地元へ配偶者を伴って帰ってくる数は、全体の10分の1以下となっており、「Uターン後に出会った×出身地が同じ」場合が圧倒的に多い。ところが男性は「Uターン前に出会った×出身地は遠い」の数が最大数となっており、ここに男女の差が明確にでている。あるいは、男性の方が地元と一緒に連れていくことの説得に成功しやすい、ということかもしれない。しかし出会った場所を問わず、配偶者の出身地が同じだったり近い場合がUターン者の中では6割以上と圧倒的に多く、東京においても同県・近県同士の交流の場をもっと増やしていくことで、Uターンへの障壁はもっと下がるのではないかと期待する。



総評

HIPによるUターンアンケートの結果、多種多様なUターンの状況の中からも、いくつかの傾向が見えてきた。特にUターン後に納得のいく働き方ができるかどうか、というのが、Uターン検討層にとって、とても大きな課題だと感じた。現在、地方は元気がない、という話を良く耳にする。帰りたいが地元の仕事がないから東京で働く、という選択は、そういう状況を更に悪化させているに違いない。国立社会保障・人口問題研究所の人口移動調査において、四国は現在住んでいる県が地元の県という割合が93%と、全国で一番高かった。これは地元から出たがらない、ということもあるだろうし、地元へUターンしている率が高い、ということでもあるだろう。だが、どちらにしろ四国で生まれた人間の四国に対する思いが強いということには間違いないだろう。現在の閉塞した状況を打開し、四国を活性化するためには、四国で育った人間が、四国を離れ外に出て多くを学び、新しい知を四国に還元していくことが、とても重要なことだと思う。今だからこそ、それぞれのYOU TURNの形を考えることで四国を更に魅力溢れる島にしていこう。